

# 緑の地球を子どもたちへ



## パック連通信

事務局：山梨県大月市御太刀 1-2-10

No.136 2025年4月15日発行  
全国牛乳パックの  
再利用を考える連絡会

TEL 0554-22-3611

### いのち・自然・くらし もうひとつのネットワーク

全国パック連は 1985年5月30日（ゴミゼロの日）11団体によって発足し、今年で40年を迎えます。

現在のネット社会とは異なり、情報をフットワークや、人と人の顔の見える関係によって入手する時代であったため、「いのち・自然・くらし もうひとつのネットワーク」を合言葉に、牛乳パック再利用運動を通して新たなネットワークを立ち上げ、情報の共有化を図りました。

全国パック連発足後にさらにネットワークを広げたきっかけとなったのが、客船を一艘借り切って、奄美の黒兎裁判や、白保海岸のサンゴ保全など環境問題に取り組む地域を訪れる「ばななぼうとの旅」への参加でした。

船内でのワークショップでは、環境・食・福祉・原発など様々なテーマで議論がなされ、前代表の平井初美も牛乳パック再利用運動の始まりの経緯・意義などを発表しました。

そこで牛乳パック再利用運動をリサイクルにとどまらず、グローバルな視点でものを考え、足元から行動することの大切さを学び、様々なジャンルで活動している方々とコミットしつなげて行きました。

この「ばななぼうと」を通じて、当時の社会運動を担う団体が全国パック連に加盟され、1年後の牛乳パック再利用運動発祥の地である大月市での第1回「牛乳パックの再利用を考える全国大会」開催に至ることとなりました。



ばななぼうとの旅（石垣島、奄美、徳之島） 1986年10月5日～10日

「ばななぼうと」の名称は、想像となりますが当時「一本のバナナから」フィリピンの農園の労働状況、流通の仕組み、貿易格差など、バナナから国際理解・国際協力の重要性を伝える授業を行っていた大津和子先生と同様の目線で、社会運動を展開していた団体による企画だったのではないかと考えます。

大津先生もまた、牛乳パック回収運動を実践されたお一人でもあり、改めていろいろなご縁を感じています。

## 2024 年度活動報告

1. パック連通信を発行し（No128～No135 計 8 回発行）会員にメールにて送付
2. 牛乳パック再利用マーク普及促進協議会の委託事業の実施（使用申し込みの対応等）
3. 牛乳パックリサイクル講習会の実施
4. 未ざらし紙パック問題への対応
  - ・リモート検討会の開催
  - ・(公財)古紙再生促進センター、全国製紙原料商工組合連合会、全国都市清掃会議 日本再生資源事業協同組合連合会と面談及び情報・問題の共有化
  - ・農林水産省・経済産業省・環境省の 5 担当窓口との情報・問題の共有化
5. 牛乳パック再生オリジナルトイレットペーパーの提供
6. 輪島市豪雨災害、大船渡林野火災災害への義援金寄付

みんなの労働文化センター/尼崎パックルネット  
関西ミルクロードの会

### 永岡美紀さんが逝去されました

永岡美紀さんは、尼崎のみんなの労働文化センターにおいて、障害を持ったメンバーさんの仕事づくりとして牛乳パック回収を始められ、全国パック連も長くお付き合いさせていただきました。1992 年に決定した牛乳パック再利用マークの普及と再生紙製品の利用拡大を目的とした、「再生紙普及キャンペーン集めて使うリサイクル」（1993 年～1997 年全国 455 か所開催）の事務局や、記録編集にも携わっていただきました。また第 12 回全国大会の実行委員として抜群の企画力・行動力を発揮され、大会成功に尽力されました。

小柄ながらバイタリティ溢れる方で、とにかく編集や企画のセンスの持ち主でした。ご自身の実践からの語る言葉には説得力があり、全国パック連のいろいろ会によくご出席いただきました。

阪神大震災で作業所が被災した際に、全国の牛乳パックリサイクル関係者から義援金が寄せられたことに感動され、ずっと牛乳パックでつながった人との縁を大事にされていた心の温かい方でもありました。

永岡さんお疲れさまでした、謹んでご冥福をお祈りいたします。



店頭での再生紙キャンペーンにも参加



神戸で開催された第 12 回全国大会、右から 3 番目



奄美大島で開催のシンポジウムにパネラーとして登壇